

東日本大震災から7年が経ちました。報道の減少などで、被災地について知り、関心をもつための機会が減る『風化』と、安全なのに売れない『風評』という2つの課題は依然深刻な状況にあります。しかしながら、浜通りに足を運び続ける中で、復興に向けた明るい兆しも少しずつ見えてきました。

### 廃炉・汚染水対策が大きく前進

本年3月、福島第一原子力発電所の敷地内に待望の凍土壁が完成し、原子炉建屋に流入していた地下水を安定的に制御できる水位管理システムが稼働しました。これにより、日々新たに発生していた汚染水の量は大きく低減。『風評』被害の根底にあった汚染水問題にとって、大きな前進です。

同時に、燃料デブリ取り出しに向けた原子炉内部調査にも着実な進展がありました。来年度に予定する1、2号機の格納容器底部の堆積物の採取・分析に向けて、炉内状況の更なる把握に向けた計画も公表することができました。

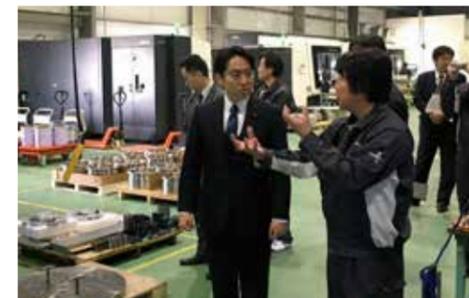
廃炉・汚染水問題を統括する政務官として、今後はこうした取り組みの進捗について、内外に対する情報発信とコミュニケーションの強化に努めたいと思います。



福島遠隔技術開発センターで、廃炉に向けたロボットやドローンの実験を視察

### 『福島イノベーション・コースト構想』が具体化

生業の再建についても、産業集積や人材育成が“目に見えるかたち”で進展を始めました。中核となるのは、『福島イノベーション・コースト構想』。公明党の赤羽一嘉・経産副大臣（当時）が提唱した本構想は、廃炉、ロボット、エネルギー、農林水産等の分野におけるプロジェクトが具体化する中で、地元からも大きな期待が寄せられています。



地元中小企業の技術力の高さに驚嘆

特に、福島ロボットテストフィールドは、世界に類をみない研究開発拠点です。この7月に通信塔が開所し、直線約13キロにわたる空域で、ドローンの飛行実証試験が可能となりました。今後福島には、世界に先駆けたドローン物流などの実現に向けて、多くの研究者や企業関係者が集い、復興を牽引していくこととなります。

### 1日も早い帰還に向けて

ここまで、私自身が携わり、現地で見えてきた明るい兆しの一部を紹介させて頂きましたが、福島の復興にはまだまだ遠く険しい道のりが続いています。

今春、7年ぶりに再開された小中学校の入学式に参加をさせて頂きました。帰ってきた子ども達の賑やかな声は、地域の希望の光である一方で、被災地の厳しい現実の一面です。故郷に戻る日を夢見る方々のためにも、引き続き生活再建支援に尽力してまいります。



念願の小中学校の再開に、生徒の笑顔がはじける

本年7月、政府は第5次エネルギー基本計画を閣議決定しました。2030年における再生可能エネルギーの主力電源化に向け、今ある技術を磨きながら、バランスのとれた電源構成の実現をうたうとともに、2050年に向けた挑戦も明記されました。脱炭素化への世界的な潮流も踏まえて、エネルギーの変革に挑みます。

### 褐炭水素プロジェクトが始動

4月11日から13日にかけて、オーストラリアを訪問しました。これは、日本政府を代表して、日豪イノベーション協力の象徴とも言える褐炭水素サプライチェーン・プロジェクトを公式発表するためのもの。脱炭素化の鍵を握る水素社会の実現に向け、歴史的な一歩を踏み出す事が出来ました。



ローンチイベントで日豪協力の推進をアピール

### 「豪州産の水素で、東京に灯りをともそう」

本事業は、これまで品質が悪く商用利用されてこなかった豪州ビクトリア州の褐炭から水素を取り出し、液化して日本まで輸送して活用するという壮大な実証実験です。水素製造時に出る二酸化炭素は、CCSという技術を用いて地中に埋め戻すため、環境面でも優れた取り組みとなります。オーストラリア政府からは、ターンブル首相をはじめ経済関係閣僚も列席するなど、大いに盛り上がりました。



ターンブル豪首相（右端）と談笑

「このプロジェクトは、将来の経済的繁栄と安全に対する先行投資だ。私たちは今、重要で画期的な4年間の取り組みに着手したばかりである。豪州の褐炭からつくった水素で、東京に灯りをともそう」とのターンブル首相のコメントは、翌日の地元紙でも大きく取り上げられ、期待の大きさを伺わせるものでした。

### 水素社会の実現に向けて

日本は昨年末、水素利用に関する世界初の国家戦略である『水素基本戦略』を策定しました。実用レベルまでのコスト低減や、活用を促すための規制の見直しなど、技術面やルールの整備に加えて、今後は各国との水素利活用に向けた連携も欠かせません。まずは、10月に予定される水素閣僚会議に向けて、私自身、各国政府との対話や国際会議などの場を活用したコミュニケーションに世界を飛び回る予定です。乗り越えなくてはならない課題も沢山ありますが、未来の地球のためなら、乗り越えられない困難などありません。



広大な褐炭層が広がる採掘現場

